



グリーンエネルギーの素さがし！

実施校：ネクスファ 武蔵野大学大学院講師 杉浦正吾

対象 小学1～6生

時間 1.5時間

参考資料

- ・グリーンパワーブック
- ・グリーンパワーペーパー

目標

その1:再生可能エネルギーを自分ごと化し、考えるきっかけをつくること
その2:子どもたちとシニアの“化学反応”で、より興味を持って考えられる姿勢をつくること

(その3:学童という学校でも家庭でもない場で、その特性を活かしたプログラムを作り上げること)

期待できる学習効果

- その1 身近な事象から楽しくアイデア出し来ること、エネルギーに対して主体的に考える力が身につく。
その2 立場の違う人(シニアなど)の意見に耳を傾け、それを共感・共有する力が身につく。
その3 アイディアを考える段階で、家族やまわりの人間を巻き込み、情報を拡散する効果も期待できる。

授業内容(ワークショップ形式)

■1日目:45分(2クラスに分けて=小1～2:14名 小3～6:10名)

1. 導入:そもそもエネルギーって? ...自分たちの考えるイメージを自由に出させます。
2. エネルギーづくりのわざ! ...まわる(す)・あつくなる(する)・ひかりをあつめる(あてる)・いきもの、食べ残し・ふるえる・こするなどを、子供たちと共有します。
3. エネルギーづくりのアイデア出し...エネルギーづくりのわざを使って、身近なシーンから実用可能なアイデアを考えます。シニアの方々も参加してのグループワークです。
4. 世界のグッドアイデアをシェア...グリーンパワーペーパーを使い、子どもたちが自分ごと化しやすいサッカーボールとトイレの事例を紹介します。
5. さらにアイデア出し
6. 宿題発表・クロージング

授業のポイント☆グリーンエネルギーというワードは用いず、子供たちの意見に寄り添うことが大事。正解・不正解という価値観は用いない。学童なので、楽しさと重視。ファシリテーション力が要求される。

■2日目:60分(小1～6=23名)

1. はじめに...前週のリフレイン。
2. 発表準備...前週のグループワークの続きとプレゼンの準備をします。子どもとシニアの混合グループです。
3. 発表...グループごとにプレゼンテーション。
4. エネルギーのアイデア“いちばん”を決めよう...掲出された全グループのアイデアにシール貼り投票(全員2枚ずつ。子どもとシニアと視察の先生方で色を変える)。
5. これをグリーンエネルギーっていうんだ! ...みんなが考えたアイデアは地球にやさしいことを共有し、これをグリーンエネルギーと呼ぶことを知ります。
6. クロージング...この二週のプロセスを保護者にも教えてあげて!と促して終了。

授業のポイント☆自分ごと化されたアイデアがグリーンエネルギーにつながることを認識させ、エネルギーに対して主体的に考えるフックをつくる。また、シニアとの触れ合いを通して、先人の知恵も体感することが重要。

授業の様子



子どもたちの反応・感想

- 1年 はじめはちょっとわかんなかったけど、おともだちとやってわかった。
- 1年 風車が楽しかった。
- 1年 シニアの話を聴くのが楽しかった。天才だなーと思った。まつぼっくりとか！
- 1年 電気を作るのが楽しかった。
- 1年 エネルギーづくりのアイデアをみんなに発表するのが楽しかった。
- 2年 頭をこすってせいでんきでパチンとなったのがおもしろかった。
- 2年 光を集めて動くものがあつたのが最初動かなかつたけど、サッカーボールとかで電気ができるのがわかって勉強になった。
- 2年 アイディアを書くのと、説明するのが楽しかった。
- 2年 考えて発明するのが楽しかった。どんなエネルギーか書くのが楽しかった。
- 3年 その場の雰囲気楽しかった。
- 5年 地球のことを考えさせられて楽しかった。そういうのが好き。そういうテーマで読書感想文書いた。
- 5年 いい仕事してる人もいるんだなーと思った。環境とか、好き。いところが「ここに樹を植えよう」とか「公園を造りましょう」とかの仕事をしている。それに似ているなーと思った。